学校番号	２１２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｃ　（数研出版）						
副教材等	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C[数列、統計的な推測、ベクトル](数研出版) 新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C[ベクトル](数研出版)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ｃ範囲内の「ベクトル」について、基礎的な知識と発展的な研究を学ぶとともに応用する力を伸ばしていきます。「ベクトル」は、今までの中学校から数学Ⅰ・数学Ａの内容にはない概念によって事象を扱う新しい内容です。新しい概念に慣れ、公式や定理を暗記するのではなく、その原理を理解し、自ら考えてより深い学びへとつなげてください。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

1. ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化する。また、それらを数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につけるようにする。
2. 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。
3. 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返ることで考察を深めそれを評価・改善につなげようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学気論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
2学期	第1章 平面上のベクトル	第1節　平面上のベクトルとその演算 1．平面上のベクトル 2．ベクトルの演算 3．ベクトルの成分 4．ベクトルの内積	a:ベクトルの定義や表し方、演算の意味や成分表示の仕組みを理解し、計算することができる。また、内積の定義を理解し、求めることができる。 b:ベクトル演算の定義を理解し、図示することができる。また、内積の性質を用いてベクトルの大きさやなす角を求めたり、垂直条件に結び付けたりすることができる。 c: ベクトルの持つ性質を，既習の知識を用いて証明しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	テストの振り返り 問題集の取り組み
		第2節 ベクトルと平面図形 5．位置ベクトル 6．ベクトルと図形 7．ベクトル方程式	a:位置ベクトルの意味を理解することができる。また、直線や円を、位置ベクトルを用いて表すことができ、具体的に直線や円の方程式を求めることができる。 b:位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察し、証明することができる。 c:様々な図形の性質や、直線・円の方程式の考察にベクトルを活用しようとする。			
3学期	第2章 空間のベクトル	1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 6. 座標空間における図形	a:平面上のベクトルについて種々の定義・性質は、空間においても同様に成り立つことを理解している。 b:第1章で学んだ位置ベクトルの概念を拡張し、空間上の直線や平面、球を表すことができる。 c:様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	テストの振り返り 問題集の取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度